

自分ですすめる『学びの一歩』音楽科3年生編

3年 組 番 名前

題材名	曲が生まれた背景を理解して、作曲者の思いを感じ取りながら名曲を味わおう
教材	連作交響詩「我が祖国」より『ブルタバ』（中学生の音楽2・3 下 P32, 33）
題材の目標	作曲者の思いや時代背景と音楽の特徴を関連づけて理解し、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、そのよさや美しさを味わいながら聴く。
*この課題では音源を示すことができないので、この題材を学習する上での予習課題とする。	

課題② 連作交響詩「我が祖国」の価値を考えよう。

1 教科書を見て、次の文章の（ ）にあてはまる語句を記入し、この曲ができた当時の時代背景を理解しましょう。

スメタナが活躍していた時代、当時の（ ）は、現在のような独立した国家ではなく、（ ）の強い支配を受けていました。そのため、（ ）の人々は母国語を話すことさえも禁じられていました。

このような圧政下で、人々は「自分たちの（ ）で話そう」「（ ）した国を作ろう」と強く願うようになっていきました。スメタナはこうした願いを音楽に託し、「我が祖国」を始め、祖国への思いに満ちた作品を世に送り続けたのです。

「我が祖国」は（ ）の自然や伝説、歴史に基づく（ ）曲の交響詩からなります。この第2曲「ブルタバ」では、祖国の姿がブルタバ（ ）の流れに沿って描かれています。楽譜に示されたA～Gの標題はスメタナ自身によるものです。

課題③ オーケストラについて復習しよう。

中学生の音楽2・3上 の口絵6, 7を見て、楽器の名前や配置を確認し、【例】を参考に、自分なりの図にまとめてみましょう。また、気づいたことなどをメモしておきましょう。
(木管・金管・弦・打に分けたり、弦楽器の大きさを順番に並べて記入したり、ここでは使われていない楽器を探したりなど、自分で工夫し、まとめてみましょう。)

【例】

